

若者が 夢を抱き、輝くまち

子どもの夢は、未来の現実です。未来の子ども達が元気で健やかに育ち、新しい横浜を思いっきり創造していく環境をつくるのが、私たちの責任です。

01 子どもの命を救うのが「一丁目一番地」

Manifesto

増え続ける児童虐待・いじめに対応するため、児童相談所へのAI・ICT導入による体制強化、子どもが安心して話せる直談室（司法面接室）の設置、小中学生に配布したタブレットへの相談アプリ導入を進めます。また里親制度の充実や、親による不適切な養育対策を強化するとともに、こども基本法の理念のもとに、子どもを守り健全に育成するための議員提案条例の制定を目指します。また、子どもたちが口元の表情や楽しい会話でお互いに感情を読み取り、感受性が育めるよう、過度なマスクや黙食の強要はさせません。

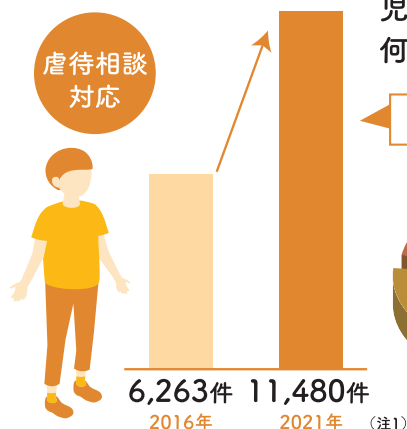


「チーフチルドレンオフィサー CCO」を任命！
子どもが住み続けたい横浜へ



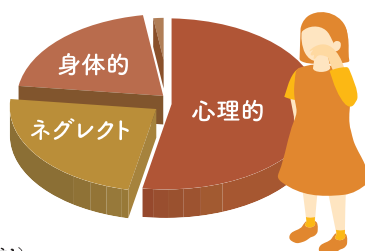
横浜市①の課題

虐待相談
対応

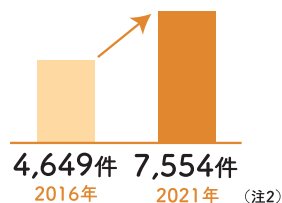


児童虐待もいじめも、対応件数が増加しており
何らかの抜本対策が必要。

2021年の内訳



いじめ



- ☒ 子どもは弱い立場で受け身
- ☒ 子どもは声を上げられない
- ☒ 子ども政策を決めるプロセスに参加できない

02 きめ細かい子育て支援を

Manifesto

不妊治療への支援強化や産前・産後の健康診査への助成、妊婦の初診無料化、妊娠時や出産時の生活応援助成、乳幼児の一時預かり、障がい児の医療的ケア、小児医療費への支援、妊産婦や乳幼児の災害対策ガイドラインの策定など、切れ目のない、きめ細かい子供・子育て政策を横浜市独自で進めるとともに国に対しても対応を求め、市内の出生率を高めます。出産・子育て応援資金は、現金給付にこだわらず、クーポンやアプリの活用で子育てのために有効に活用される仕組みや、第二子、第三子の出産には加算するなど効果的な工夫をします。

03 読書を子どもの豊かな「栄養」に

Manifesto

「令和の時代の読書活動」を進めるため、タブレット端末での閲覧やレファレンスデータの配信、様々な図書館と学校図書室の連携や司書間のネットワーク化など、対話や交流ができる新たな図書館のあり方を検討します。



66 CCOチーフチルドレン オフィサー 99 を任命

- ① 子どもの代弁者として子どもの声を政策に反映（子どもアドボカシーの実現）
- ② 子ども青少年局や教育委員会などのタテ割りの弊害を払拭
- ③ CCOを中心にタスクフォースを編成

子ども・保護者からの相談窓口を拡充し、CCOに情報を直結させる



- ① SNS相談を拡充し、相談のハードルを下げる
- ② 相談内容をタスクフォースが解決へ



子どもの命と 未来を守る！

- 迅速で効果的な虐待・いじめ対策の実現
- 子どもの声を理解するCCOにより、政策に子どもの意見や視点が反映できる
- 分野横断的に素早く対応し、問題の芽が出る前に摘み取る
- 食べる量の違いやアレルギー等にも配慮した、温かくておいしい、生徒たちに喜ばれる中学校給食を実現します。

子育て ・ 教育

全員喫食の中学校給食の導入に向けて、温かくて美味しいと生徒が感じる、食べる量の違いを調整できるようにして食品口スを最小限とする、アレルギーやビーガンなどに配慮する、行政の財政負担を最小限に抑えるなど、諸課題を克服した上での実施に努めます。

親と子の集いの広場や地域子育て支援拠点、拠点サテライトなどの増設を進め、孤独な子育てを防ぎ、すべての妊産婦や子育て 家庭が地域の中で温かく見守られる中で、子育てを楽しく幸せだと感じられるよう体制を整えます。

双子、三つ子など多胎児を育てている家庭に対し、3歳まではタクシー補助券を配布するなどの移動支援策を検討します。

DV対策として、一時避難のためのシェルターの整備および運営支援を強化します。

食品ロス対策や子どもの貧困対策のためにフードドライブの普及や、食品事業者とフードバンクをつなぎ、子ども食堂などに食品を効率的かつ迅速に無償提供するため、デジタル技術を活用した新しい仕組みを構築し関係団体の機能向上を支援します。

就学中の児童・生徒が親や祖父母の介護を担うヤングケアラーの実態調査と、子ども食堂や学童保育など、子どもや若者たちが安心して憩える居場所（サードプレイス）での寄り添った対策を進めます。

女子学生の生理と貧困の課題に取り組み、誰もが気兼ねのない状況で生理用品を受け取れる環境や、思春期特有の悩みなどを相談できる体制を整えます。

学童保育と放課後キッズクラブの負担格差の縮小や、2人以上の兄弟で学童保育に通う場合の保護者の負担の軽減策を検討・提案します。

特別支援学校における通学支援、付き添い解消を通学籍、訪問籍を問わず進めます。

ASO、AOHO、LOといった発達障害に対しては、早期発見早期 治療に対する行政の支援や、学校内での適切な対応や居場所づくりなどを進めます。

引きこもりからの脱却と社会復帰のため、自立支援を拡充し、家庭や学校・職場とは違う若者たちの居場所に対する支援を進めます。

地域社会・学校・保護者・行政が一体となって、学校周辺の防犯・安全対策を進め、安心・安全な通学路の確保やスクールゾーン 対策を強化します。

町内会における子ども会活動や資源集団回収、公園愛護会やハマロードサポーター、まち普請事業など、地域に根ざした地道な活動が持続可能な息の長い活動となるよう支援します。

子どもたちに豊かな文化体験をさせるため、子どものころから、アート や音楽、ダンスなどに親しめる芸術文化教育プログラムを拡充します。

新たにできる教育センターには、ネット配信スタジオやファブラボ（子どもがドローンや3Dプリンターなどを自由に使える施設）などを備え、デジタル教育を充実させて、デジタル人材を横浜から育てることを目指します。

ものづくり企業や大学との連携によるイベントや、若者たちの職業訓練校での専門スキルの獲得などを通じて、学生や若い世代の「ものづくり」に対する関心を高め、高齢化が進む建設業や製造業の担い手を育てます。

日本や横浜の歴史・ 伝統文化を子どもたちに継承するための歴史教育を公教育において充実させるとともに、多様な教育体制に対応すべく、教職員の研修・ 育成体制の強化をはかります。

EBPMに基づき英語学習を拡充し、世界に羽ばたき活躍することを目指す留学生に対する支援を拡充するなど、家庭環境に影響されることなく誰もが海外にチャレンジ出来る環境を整えます。

学校部活動について、地域から指導者を募る、合同チームの結成、教職員の負担軽減など、課題を整理して生徒たちにとって有意義な部活動の在り方を提言・ 実行するとともにアスリートのセカンドキャリアを支援します。

学校の建て替え時には、校舎を学校以外の施設と複合化することで地域に開かれた学校とすることや、公民連携による民間資金の導入によって早期実現を目指します。東部地区への新たな発想による未来型の小中一貫校の検討に着手します。

就学支援制度を受けられず、生活保護の対象にも該当しない困窮した大学生が、就学の機会を失うことのないような横浜独自の 就学支援策を検討・ 提案します。